
夏には避けて通れない戦い

水守中也

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夏には避けて通れない戦い

【Z-コード】

Z03341

【作者名】

水守中也

【あらすじ】

八月三十一日。夏休みの宿題に苦しむ三月の携帯に、親友のあんりからのメールが届いた。

『助けて、死ぬ』

中島 三月は、そのメールを一瞥しただけで放置して、鉛筆を持ち直した。

八月三十一日。悪友の、古屋あんりから届いたメール。真相は、考るまでもなく明確だった。なぜなら三月自身、それに追われていて、助けを求める気分だったから。

ナツヤスミノ、シユクダイイイツツ！

なんとなく格闘技ぽくに言つてみた。

さすが小学校六年間の集大成、無駄に量が多い夏休みの宿題。お受験組への配慮のかけらも感じられない。自分関係ないけど。

これでも夏休みをエンジョイしようと七月中にも宿題をこなしたのだ。簡単なやつを。で、後回しにしておいたものをすっかり忘れてしまつて、翌月の月末に至る。

この一か月何をしていたのよつ、と自分の行動に愚痴る。遊んでいたんだけど。

優等生ぶつている双子の弟、弥生はとつぐに宿題を終わらせるが、お姉ちゃんを敬う気持ちはなく、非協力的だ。そんな彼の宿題を、泣かしてでも強引に写していたのは去年までの話。自分はもう、来年は中学生なのだ。そんな子供っぽいことはしない（母親に告げ口され、そのお仕置きが怖いことを、六年目にしてようやく悟つたこともある）。

とにかく自分の力だけで、この難敵に立ち向かつてやうじやない。

手にした鉛筆を動かす。腕も指も問題ない。いつでも働く準備はできている。けれど問い合わせが分からなければなにもできない。うーん。

鉛筆を人差指の上でぐるぐる回す。三回転に成功したとき、ぴぴ

ひと再び携帯が光った。

『……も、だめ。ぐふつ』

死んだ。

まあ、いいや、これで静かになるだろ。

三月は消しゴムを手に取り、ドリルの半分を覆っていた落書きを消す。消し終わったら消しゴムが真っ黒になつた。見栄えが悪いので、白いところを擦つて綺麗にする。ついでに究極の球体を目指してみる。

ぴぴぴ……

『三月は冗談だと思った。ところが新学期。踏み入った教室の美少女あんりちゃんの机の上に置かれていたのは一輪のバラ……』

死人がメールを打つな。

ていうかこんな長文を……と呆れつつ、三月はふと思つた。もし

かしてこいつ、暇？

宿題を手伝つてほしいのなら、電話して頼めばいい。メールを打つよりずっと早い。

しかしそれをせずに、わざわざメールを打つているというじとま、単に、自分をからかつて遊んでいるだけかもしれない。そんな余裕があるつてことは、宿題は終わつている可能性、大。

三月は考えた。ここはうまく話を合わせる。そして助けるふりをして、彼女の家に押しかけよう。もちろん、宿題を持つて。あとは泣き落としでも何でもして宿題を写すつ！

さつそく、あんりに電話をかけてみる。だが呼び出し音はすぐに「ただいま電話に出ることが……」に変わつた。仕方ないので、メールに付きやつてやる。

入力する。

えーと、『どした？ 助けてつて、宿題？』

『夏には避けて通れない戦いなのだ』

三月は思いつきり避けたかった。それができないからこつしているわけで。

えーと、『了解。助けにいってしんぜよ』

『来るときは新聞を持つてくるが吉』

新聞？ さては、日記の宿題だな。一か月前の天気なんて覚えてない。だから昔の新聞を見て書くつもりか。

『なければ、スプレーでも可なのだ。むしろ良』

スプレー？ なんだろ。もしかして自由制作か。てことはあんりは自分より遅れている可能性がある。それじゃ役に立たないじゃん。

ま、いつか。面白そудだし。優越感にも浸れるし、転換したい気分だつたし。

えーと、『分かった。それまで死ぬな』 つと。

メールを送信した三月は、宿題一式と適当な日付の新聞一部（全部じゃ重過ぎるし、すでに古紙回収に出ていてそんなにない）を持って、家を出た。蛍光塗料のスプレーは見当たらなかつたので持つていかない。あんりからすればぜんぜん役に立たないだろう。けどかまわない。

目的は、転換したい気分（気に入つた）と優越感だ。もし宿題を写せる部分があつたら、ラッキー。とそんな気持ちで、あんりの家に向かつた。

やつを逃がしてその存在におびえるよりは、ここで一戦を交えてしとめるべきなのだ。

そう決断して真っ先に扉を閉めた。退路を断つ。おかげで武器は取りにいけない。家族は不在。なんとか携帯を使って、近所の三月を呼んだ。相手を刺激しないように、通話ではなくメールで。

もうしばらくしたら、三月が駆けつけてくれるだろう。なんか勘違いしているみたいだつたけど、一人より二人。来てくれるだけで

もいいので、放つておいた。

ふと思ひ出す。

そういえば三月も、あの活発な性格に似合わず、この「黒い虫」は苦手だつたつて。

「うーん、どうが。」画眉がうなづく。

一、把共产主义理想——

(後書き)

構想時はタイムリーなネタだったのですが、すっかり季節遅れとなつてしましました。反省です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0334i/>

夏には避けて通れない戦い

2010年11月8日09時13分発行